

漢字絵本を使って指導する方法

幼児のための「漢字の絵本」を、本書の別巻につけました。テキストなしに、今まで述べてきたようなことを、うまくやっていただければ、それですばらしい成果が得られるはずですが、テキストを使用すれば、上手下手なしにある程度の成果が得られますので、編集したものです。

さて、その使用法(指導法)について、少し述べることにします。

テキストの裏表紙に、指導の原理、原則、注意事項が書いてあります。これらの各項については、お読みになってよく理解したつもりでも、時々(というよりも、本書を手にするたびに)繰り返して読み、誤ることのないようにしてください。私も、幼児の指導に当たっては、常に読んで自粛自戒しています。私のように、20年近く実行し、自分で考え出したものでも、時々読まないと言われることがあるものです。

これは指導がむずかしいということではありません。教育というものは、“丹精”ということが大切だと思うからです。丹精が必ず結果に現われるからです。

野菜一つ作るのでも、雑草の一本を抜き、小石の一つを除けば、それだけで“でき”が違って来るではありませんか。そういう意味で、私は、自分の書いたものを、心して読むのです。

毎日、本を出して読ませることが大切です。一日、一ページから二ページ。一冊を一か月で終えるか、二か月で終えるか、それに従って適当に割り当ててください。

一回の指導は、五分から十分くらい。気分転換のつもりで、何かの学習に飽きを感じ出した時に、この本を取り出して、前に学習した漢字のおさらいなどをしますと、元気をふき返します。

心理学者の実験報告によりますと、学習した事柄を忘れるのは、学習後一時間以内が最も多いそうです。一時間以後は忘れる割合がだんだんと少なくなっていくのです。

だから、学習した漢字を、四、五十分たってから、つまり、間に何か別の学習、または休み時間をおいて、おさらいをするのが、漢字学習の上では最も有効な方法です。

一般に“記憶”の原理は、“関心”と“反復”だと言われていますが、

一般的な復習の時期は、

一時間以内

まる一日後

一週間後

一か月後

というように、記憶期間がだんだん長くなるのに応じて、間があいてもよいようになります。しかし、いくら反復しても悪いことはありません。むしろ、反復することにより、必ずそれだけ記憶は強固になるのですから、できたら、どの学習の時でも常に初めからおさらいすることに努めたいものです。

文字は、漢字から学ばせることが、絶対に必要です。理由はあとで述べます。ともかく、実体に即して漢字が存在することを幼児に理解させ、幼児たちが、“文字とは、内容(実体)のあるものを表わす符号”であることを、理屈でなく、体で理解させるように努めます。

これがわからないうちに、かなを教えますと、「木しゃ(汽車)が木(来)た」という書き方をするようになります。今の小学校では、この誤り

を犯す子供が多く、先生はそれを直すのに手を焼いていますが、漢字を先に理解させる石井方式で学習した子供は、絶対にそういう誤りをしません。

かなは、本来、音声だけを表わす字ですから、内容をもたない“テニヲハ”や“用語の活用語尾”など、漢字の補助として用いるのに適した文字です。